

2025 年 1 月 31 日

「異分野の人と話そう！ポスターデザイン講習」報告書

報告者：小林伊織

【企画者】

- ・小林伊織（工学研究科 生命分子工学専攻 博士前期課程 1 年）
- ・北谷宏仁（創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 博士前期課程 1 年）
- ・大津岳士（工学研究科 応用物質化学専攻 博士前期課程 2 年）
- ・箕浦有紗（創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 博士前期課程 1 年）
- ・生路みのり（理学研究科 理学専攻 博士前期課程 1 年）
- ・山住優斗（理学研究科 理学専攻 博士前期課程 1 年）

【企画の概要】

研究発表におけるポスター制作の技術向上を目的に、資料デザインの専門家を講師に招き、わかりやすく魅力的な資料作成のポイントについて講演を行った。前半の講義では、視認性を高める具体的な手法が紹介された。後半のグループワークでは、実際に使用されたポスターの添削や加筆を行い、学んだ内容を即実践することで理解を深めた。結果として参加者はポスター作成における理論的なアプローチを習得し、今後の研究発表に活かせる実践的なスキルを身につけることができた。

【開催の背景と目的】

GTR では、異分野間の融合研究を促進しており、その多くは学会や GTR の集まり、特にポスター発表を通じた研究者同士の積極的なディスカッションから生まれている。ポスター発表は研究内容を視覚的に伝える重要な手段であり、わかりやすさや目を引くデザインは、研究の関心を高め、より活発な議論を促す要素となる。魅力的で見やすいポスターは、新たな共同研究のきっかけを生み出し、融合研究の“**opportunity**”を増やす重要な役割を果たす。しかし、ポスターデザインに特化したセミナーはほとんど開催されておらず、研究者が効果的なデザインを学ぶ機会は限られている。事前に実施したアンケート調査では、GTR 生の約 9 割がポスター制作に悩んだ経験があると回答し、さらに博士前期課程（1・2 年）の学生の半数以上がポスター発表での受賞経験がないことが明らかになった（図 1）。これは、多くの学生がポスター発表の技術を体系的に学ぶ機会がなく、発表の質を向上させるための知識が不足していることを示している。

そこで、本企画では、ポスター発表における「わかりやすさ」と「魅力的なデザイン」を学び、実践する機会を提供することを目的とする。ポスター発表の効果を最大限に引き出し、審査員や聴衆に強い印象を与えることで、ポスター賞の受賞につなげることを目指すととも

に、発表を通じた有意義な議論を促進し、融合研究のさらなる発展を支援する。本企画の最終的な目標は、GTR 成果報告会においてセミナー参加者がポスター賞を受賞し、学んだ技術を実際の研究発表に活かせるようにすることである。

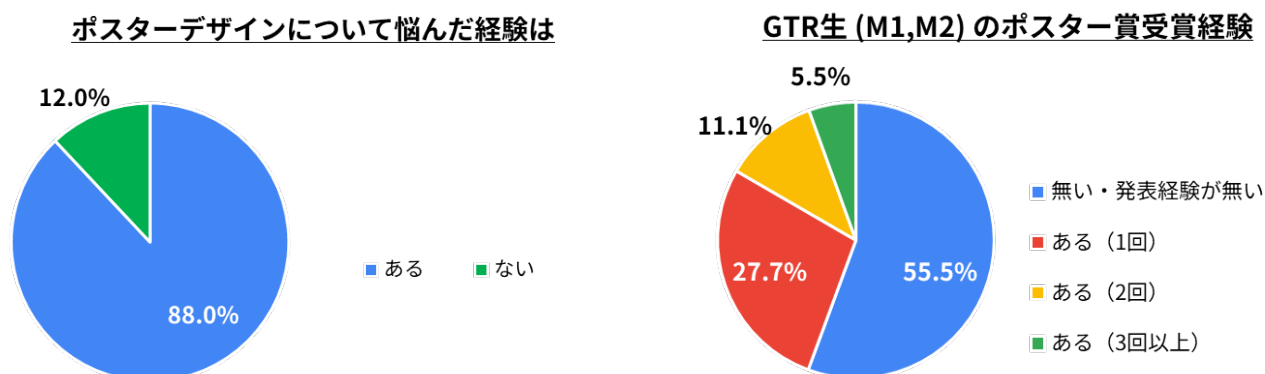


図 1. 事前アンケートの回答結果

【開催内容】

開催日時 2024 年 12 月 18 日（金）13:00~17:00
開催場所 名古屋大学理学部 C 館 2 階 化学科第 3 講義室
講師 高橋佑磨 先生 千葉大学大学院理学研究院 生物学研究部門 准教授
高橋一誠 先生 名古屋大学トランスフォーマティブ化学生命研究所 (ITbM) 特任講師
参加者 GTR 生 23 名, GTR 学生以外 (B3, MNS 生等) 7 名

講師には本学所属であり、ITbM 内で研究内容を魅力的に伝える Graphical Abstract 作成などサイエンスデザイナーとして活躍されている高橋一誠先生と、千葉大学大学院理学研究院生物学研究部門 准教授でありながら、研究における「伝わるデザイン」に関する本の出版や Web サイトの運営などを行う高橋佑磨先生に依頼し、異なる視点からご講演やご指導を頂いた。参加者として GTR 生 23 名が集まったほか、MNS 生や学部 3 年生にもご参加いただいた。

プログラム

13:00~ ご講演 (60 分×2)

高橋佑磨先生 ~作り手にも受け手にも優しい 資料作成のデザイン術~

高橋一誠先生 ~研究ポスターを魅力的に見せる- Graphical Abstract~

高橋佑磨先生 実際に使用されたポスターの修正例実演 (10 分)

15:30~ グループワーク (各 30 分)

- ①実際に使用されたポスターの添削
- ②各班の添削内容共有

本企画開催までの大まかな流れ

2024 年 7 月	GTR WG イベント “院生企画をやろう”で発足
2024 年 8,9 月	企画立案・招待講師候補決定・事前アンケート実施
2024 年 10 月	ヒアリング, 微修正, 招待講師決定
2024 年 11 月	講師の先生方含め打ち合わせ, 最終調整
2024 年 12 月	企画実施, GTR 成果報告会で企画報告



GTR
Transformative Chem-Bio Research
Nagoya University

名古屋大学 卓越大学院プログラム
トランスフォーマティブ
化学生命融合研究大学院プログラム

GTR基礎講座II

日時 | 2024年12月18日(火) 13:00~17:00
場所 | 化学科第3講義室 (理学部C館219)

異分野の人と話そう！ポスターデザイン講習

本企画は、年次報告会で賞を取ることを目的としたポスターデザイン講座です。
年次報告会で賞を取りたい！有意義なディスカッションをしたい！
と考えている方は奮ってご参加ください！



高橋 佑磨

千葉大学大学院理学研究院
准教授



高橋 一誠

名古屋大学 WPI-ITbM
特任講師 / サイエンスデザイナー

連絡先

inseikikakuposterdesign@gmail.com

企画者

小林伊織, 山住優斗, 北谷宏仁, 箕浦有紗, 生路みのり, 大津岳士

参加登録はこちらから (大学院生対象) ▶

* 本講座はGTR基礎講座II 認定科目です。
参加希望者が多数の場合はGTR生を優先させていただきます。



本企画でのヒアリング用スライドで適宜 ChatGPT を使用した。本広報ポスターは招待講師である高橋一誠先生に作成いただいた。

【当日の様子】

講演の様子



※本講義は、実際に使用されたポスターを使用しているため秘密保持契約に基づきポスターに関してはモザイク処理を行っています。

はじめに高橋佑磨先生から、フォント、配置、図表、配色等について、読み手に寄り添ったわかりやすく読みやすいポスターデザイン技術をご講演いただいた。次に高橋一誠先生から、過去の Graphical Abstract を基に、研究を魅力的に見せるための技法をご講演いただいた。最後にグループワークで行うポスターの添削の例として、高橋佑磨先生が企画メンバーの過去のポスター3枚を実演形式で添削していただいた。

グループワークの様子



※本講義は、実際に使用されたポスターを使用しているため秘密保持契約に基づきポスターに関してはモザイク処理を行っています。

グループワークは2部構成で行った。前半では異なる分野の学生3-5名のグループを作り、その班の代表（M1,2を代表に優先的に選抜した）の過去のポスターの添削を30分間議論した。研究分野を偏らせないことで、異分野の研究者にもわかりやすく伝えるためのデザインへの添削を期待した。後半では他のグループの添削を見て回り、添削内容を共有した。最後に2人の講師の方から本セミナーの総評を頂いた。

【成果】

本セミナーの講義レポートから、本企画の成果について記載する。

本セミナーを通じて得られた知見について述べる。まず高橋佑磨先生の講演に関しては、「デザインとは徹底的に違和感をなくす作業である」という考え方が多くの参加者に強く印象付けられた。具体的には、読み手の負担を軽減するフォントの選定、行間や要素間の適切な余白の確保、色覚バリアフリーを考慮した配色の重要性について学んだという意見が多数を占めた。また、「センスではなく理論に基づいたデザイン」の考え方が、ポスターやスライド作成において有効であることを認識したという声も多く寄せられた。

次に高橋一誠先生の講演に関しては、研究を魅力的かつ分かりやすく伝える **Graphical Abstract** の重要性が広く認識された。具体的には、**And-But-Therefore** 構造を活用した研究ストーリーの整理、視線誘導を意識した「カーブ型遠近法」や「シンメトリック構図」などの構図の効果 について学び、それらを積極的に取り入れたいという意見が多く寄せられた。また、本セミナーは講義（インプット）とグループワーク（アウトプット）の二部構成で実施され、理論と実践を組み合わせた学習形式が効率的な習得につながったとの評価が多かった。

次に、本セミナーで得た知識を今後どのように活用するかについて整理する。代表的な意見として、以下の2点が挙げられる。

1. 「違和感をなくす」視点の活用

主に高橋佑磨先生の指導をもとに、フォントの選定、適切な余白や配置、バリアフリーを考慮した配色など、視認性を高めるデザイン手法を意識し、ポスターやスライド作成に取り入れるという意見が多く寄せられた。

2. 視線を引き付けるデザインの工夫

主に高橋一誠先生の講演内容を踏まえ、第一印象で注目を集める **Graphical Abstract** の導入や、**And-But-Therefore** 構造を活用した研究ストーリーの整理などを実践し、研究発表の効果を高めるという意見が多かった。

さらに、これらの手法をポスター作成にとどまらず、スライド・論文・申請書作成など、幅広い場面で応用するという意見も多数挙がった。

最後に、「セミナー参加者が **GTR** 成果報告会でポスター賞を受賞する」という本企画の最終的な目標が達成されたことは、本セミナーの有効性を示す大きな成果である。

本企画の成果の総括

1. 読み手に寄り添う視点の獲得と、それに基づくデザイン技術の習得
2. 研究の魅力を最大限に引き出すための構造原理と、効果的な構図の理解
3. 本セミナーで得たデザイン技術を活用し、**GTR** 成果報告会においてポスター賞を受賞する成果を達成

本セミナーを通じて、デザインの理論と実践を効果的に学ぶ機会を提供し、参加者の発表スキル向上に寄与した。今後も学会発表や研究成果の発信において、本セミナーで得た知見

が活用されることが期待される。

【謝辞】

本企画の実施にあたり、限られたスケジュールの中でご協力いただき、貴重なご講演と実践的な指導を通じて本企画を成功へと導いてくださった高橋佑磨先生、高橋一誠先生に、心より感謝申し上げます。お二人の講義とグループワークを通じて、参加者はポスター発表における視認性の向上やデザインの工夫、効果的な情報伝達の技術を学び、今後の研究発表に活かせる貴重な知識とスキルを習得することができました。特に、フォント選びや余白の活用、視線誘導といった具体的な手法を体系的に学ぶ機会となり、参加者からも非常に有意義な講義だったとの声が多く寄せられました。

また、本企画は名古屋大学卓越大学院プログラム「トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム (GTR)」の支援のもと実施されました。異分野融合研究を推進する GTR の理念に沿い、本セミナーを通じて参加者が研究内容をより明確に伝え、新たなコラボレーションの機会を創出する一助となったことを嬉しく思います。企画段階からご支援いただいた GTR プログラムに参画されている先生方、並びに GTR 学生支援室の皆様に、企画者一同、深く感謝申し上げます。

今回の学びを生かし、セミナー参加者がより優れたポスターを作成し、今後の GTR 成果報告会や学会でのポスター賞の受賞につながることを、さらには研究者間の活発な議論と融合研究の発展に貢献できることを願っております。改めまして、本企画に関わってくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。